

3

社会科の学習指導

(社会科教員調査)



1 授業で取り入れられている学習活動

(1) 言語活動

今年度で現学習指導要領が全面実施となって3年目となり、現在の中学生全員が現学習指導要領の授業を経験することとなった。学習指導要領における重要な改善点の一つとして「言語活動の充実」があげられる。言語活動の充実に関わる学習活動として、「ワークシートの活用」、「図や表の読み取り」、「自分の意見の発表」、「グループでの話し合い」の活動が社会科の授業で年々増加してきていることは好ましいことである。特に「自分の意見の発表」、「グループでの話し合い」というコミュニケーションを図る活動が増加傾向にあることは頼もしい。社会科として「図や表の読み取り」を行うことは社会的見方・考え方を養うために重要な活動であるが、読み取ったことをワークシートに記述し、それをもとにグループや学級全体で意見のやりとりを行うことがコミュニケーション能力を高め、自分と異なる意見を知ることにより、より広く深い見方・考え方を身に付けることにつながるのである。昨年までの調査では、言語活動への取り組みへの不安や悩みを多く抱えていることが感じられたが、まずは実践してみてそのうえでよりよい活動の仕方を見出そうとする教員の意欲を感じる。今後もこの意欲に期待したい。

(2) 掛け地図・年表の活用と年齢別の学習活動

掛け地図の活用の項目は、今年初めての調査である。掛け地図や年表の活用は、昭和時代の社会科の授業ではよくみられた光景であり、年齢別で活用度に差異が生じると予想した項目である。予想通り、年齢が高い教員ほど、「地図帳の活用」、「掛け地図の活用」、「年表の活用」を授業で取り

入れている結果となった。一方、「図や表の読み取り」、「グループでの話し合い」など言語活動に関わる活動は、若い教員ほど活用度が高くなっている。

今回は、「掛け地図の活用」、「年表の活用」ともに、おおよそ半数の教員が2時間に1回以上の割合で活用している。掛け地図の活用は、ICTの活用が重視されている昨今では減少の傾向があると思われる。電子黒板による地図や資料の提示は、生徒全員を注目させ統一した学習活動を指示するには効果的である。しかし、ともすると多くの地図や資料を提示することで生徒にとって情報過多となり、消化不良となるデメリットもある。一方、掛け地図を常に黒板の傍らに掲示すれば、位置や分布、関連を読み取ることはもちろん、常に地図を視野に入れることで、授業をしている州や地方の形や地勢がイメージとして生徒の記憶に残ると考える。年表の活用も歴史的事象の時代やその時代における位置と他の事象との関連を記憶に残すという意味で大切であると考えられる。

2 テーマ探究型の学習活動

現学習指導要領においては、基礎的・基本的知識・概念や技能の習得とその活用として思考力・判断力・表現力の育成が求められている。これらの活用力を育成するには、テーマ探究型の学習活動が有効である。

今回の調査では、「調べ学習」については年間「6～10時間くらい」が26.7%、「11時間以上」（「11～15時間くらい」+「16時間以上」）の10.1%を合わせると約3分の1の教員が、「3～5時間」を加えると約4分の3の教員が「調べ学習」を行っている。これらを単元数に換算すると1～4単元

を調べ学習に費やしていることが読み取れる。レポートの作成は1～3単元の学習で行われているものと推測される。調べ学習及びレポートの作成は、地理的分野では世界の州別学習や日本の地方別学習において州あるいは地方を特定して、歴史的分野では時代の特色をまとめる、あるいは時代から時代への転換をまとめる学習として、公民的分野では最後の単元の「よりよい社会をめざして」を追究する学習で実施されていると考えられる。実際、どの分野のどの単元で行われているかを、今後明らかにしたい。

憂慮すべきことは、ここ数年、テーマ探究型の学習活動が減少していることである。この原因として、特に地理的分野において、基礎的・基本的知識・概念や技能の習得のために学習内容が増加し、かつてのような解説型の授業が多くなっていることが考えられる。

テーマ探究型の学習活動の教員の年齢別実施状況は今回初めて調査し、当初は年齢による差異を予想したが、結果としては年齢別の大きな差異がみられなかった。ただ、他の年齢に比べ、20代の教員の実施率がやや低いのは、やはり経験の差によるものと考えられる。とすると、本来なら経験を増すごとに生徒を主体とするテーマ探究型の学習活動の実施率が高まるべきであり、今後テーマ探究型の学習活動がより多く展開されることを期待したい。

3 授業でのICTの活用状況

この項目は2013年より調査しているが、「教員がPCを使用する授業」を年間「6時間以上」（「6～10時間くらい」～「16時間以上」の合計）行っている教員は4割以上となっており、特に年間

「16時間以上」活用する教員が2013年から2014年の1年間で17.6%から24.5%に増えている。また、「インターネットの情報を活用する授業」を年間「16時間以上」行っている比率も8.4%から11.2%へと増えている。これらは予算面やソフト面での改善が図られていることが背景にあると考えられる。ICTの活用のための教材研究や準備には多くの時間を要することが、積極的な活用につながらない要因の一つと考えられるが、ICT活用のための教材は一度作成すれば少しの改善で繰り返しの活用ができるメリットがあるので、重点的に活用する単元を選択して複数年をかけて単元ごとの教材を蓄積していくことによって活用する授業数が増えてくるものとする。

4 地理的分野・歴史的分野の授業の進め方

1、2年生の社会科の授業の進め方が π （パイ）型かザブトン型かについての調査は毎年実施してきているが、今回も π 型が92%以上と圧倒的であり年々微増傾向にある。 π 型での地理と歴史の進め方についても毎年実施している項目であり、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」という進め方が今回も67%程度で、ここ4年間で大きな変化はない。より細かくみると、「1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う」は1年生で増え、2年生で減り、「学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う」は1、2年生ともに微増している。

「1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」の1単元の扱いを考えた場合、中単元と小単元では授業時数が大きく異なり、区切りの時間も異なってくる。中単元の扱いか小単元の扱いか、この点も今後、明らかにしたい。

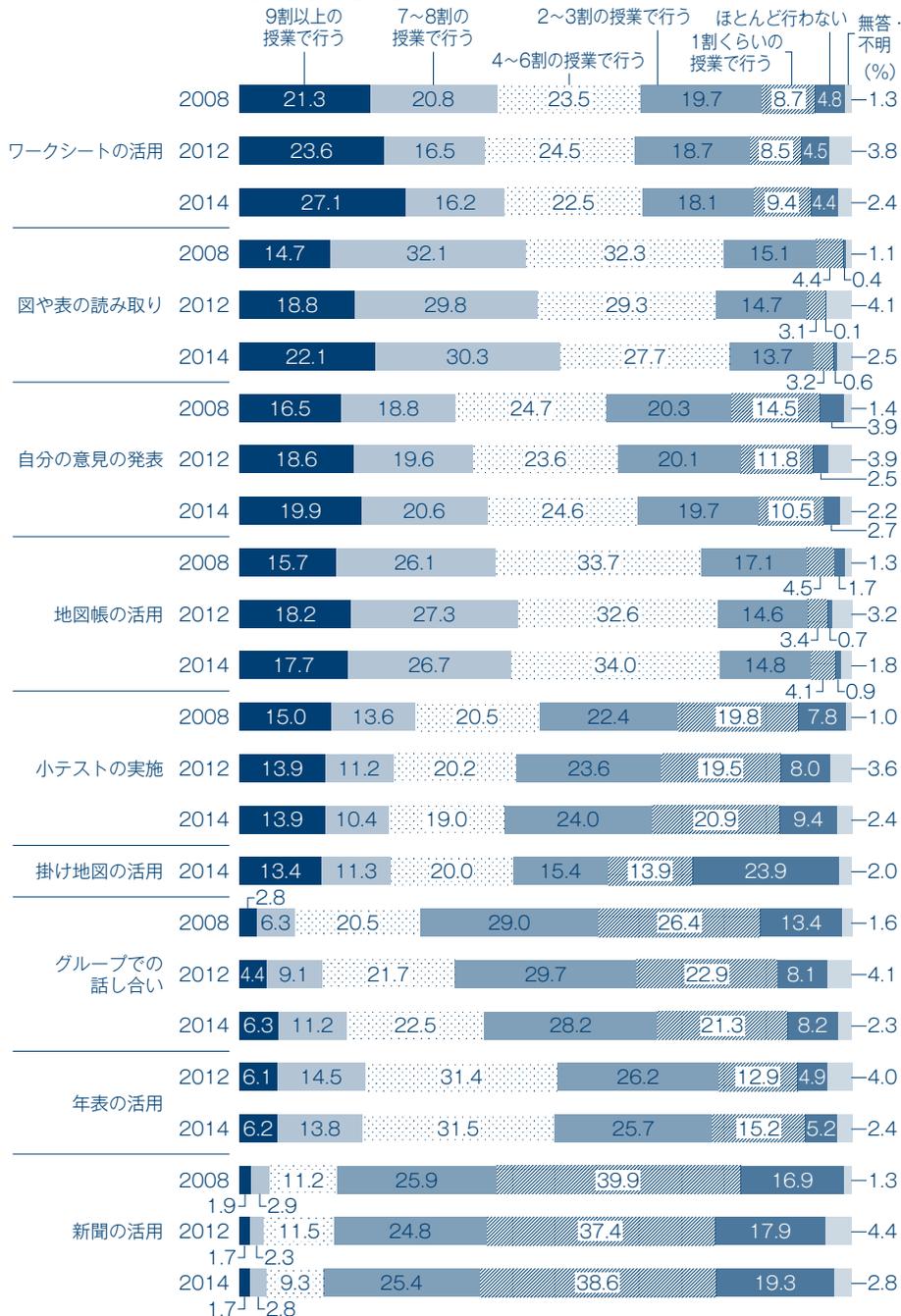
DATA① 授業で取り入れている学習活動

授業で、「ワークシートの活用」「図や表の読み取り」「グループでの話し合い」などの学習活動を取り入れている比率は、徐々に増加。

授業で取り入れている学習活動として、「9割以上の授業で行う」の比率が高いのは、「ワークシートの活用」(27.1%)、「図や表の読み取り」(22.1%)である。これらの比率は2008年から2014年にかけて徐々に増加している。一方、「ほとんど行わない」の比率が高いのは、「掛け地図の活用」(23.9%)、「新聞の活用」(19.3%)である。「自分の意見の発表」は「4～6割の授業で行う」(24.6%)、「グループでの話し合い」は「2～3割の授業で行う」(28.2%)の比率が最も高い。

Q 次のような学習活動を、どれくらいの授業で取り入れていますか。

図3-1 授業で取り入れている学習活動(経年比較)



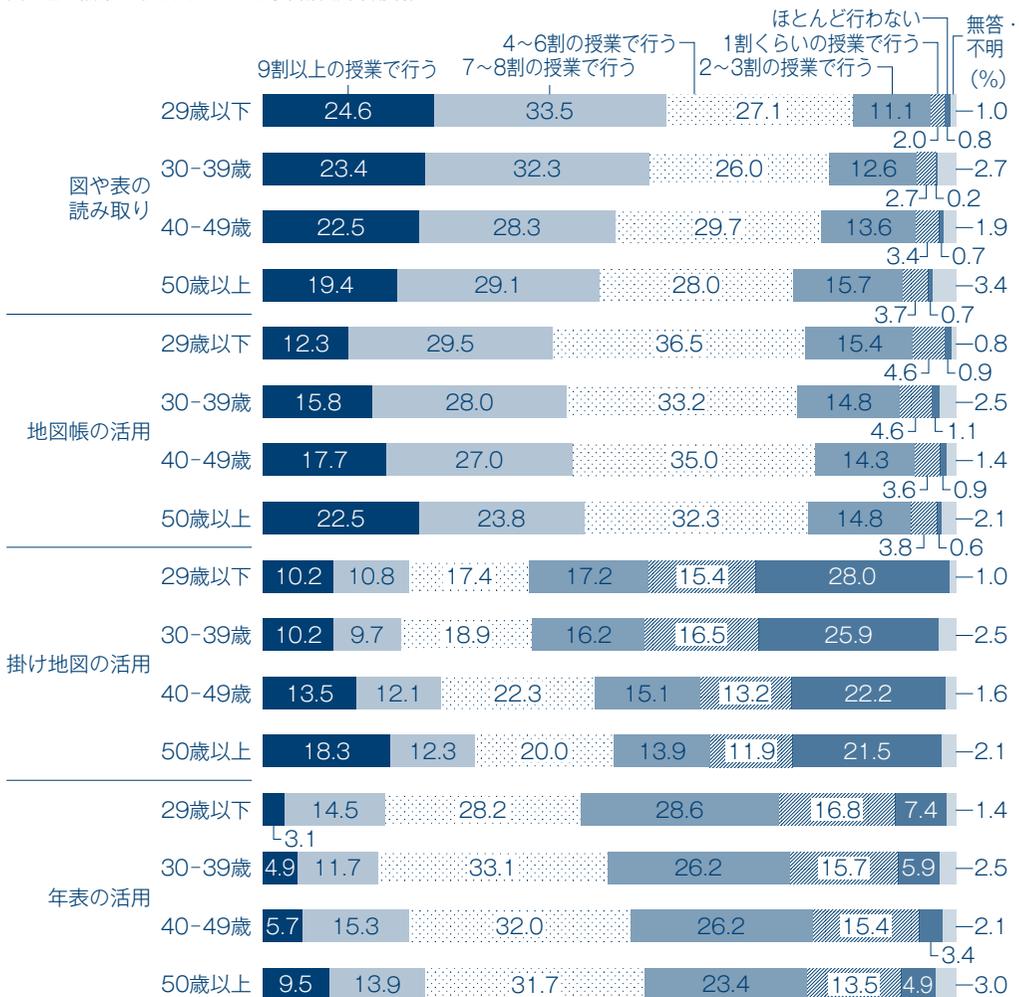
DATA② 授業で取り入れている学習活動(教員の年齢別)

年齢が高い教員ほど「地図帳の活用」「掛け地図の活用」「年表の活用」を、年齢が低い教員ほど「図や表の読み取り」「自分の意見の発表」「グループでの話し合い」を授業で取り入れている傾向がある。

授業で取り入れている学習活動を教員の年齢別にみると、「地図帳の活用」(10.2ポイント差。「9割以上の授業で行う」の「29歳以下」と「50歳以上」の差、以下同様)、「掛け地図の活用」(8.1ポイント差)、「年表の活用」(6.4ポイント差)は、年齢が高い教員ほど取り入れている傾向がある。一方、「図や表の読み取り」(5.2ポイント差)、「自分の意見の発表」(3.8ポイント差)、「グループでの話し合い」(2.8ポイント差)は、年齢が低い教員ほど取り入れている傾向がある(一部、図省略)。

Q 次のような学習活動を、どれくらいの授業で取り入れていますか。

図3-2 授業で取り入れている学習活動(年齢別)



※「29歳以下」は「24歳以下」「25～29歳」、「50歳以上」は「50～59歳」「60歳以上」と回答した教員の数値。

※「9割以上の授業で行う」の数値に、年齢別で5ポイント以上差がある項目のみ示している。

DATA③ テーマ探究型の学習活動

「調べ学習」「レポートの作成」の実施時間は、年間「3～5時間くらい」が最多(37.7%)、「レポートの発表」は、年間「1～2時間くらい」が最多(45.5%)。これらの学習活動は2008年から2014年にかけて徐々に減少している。

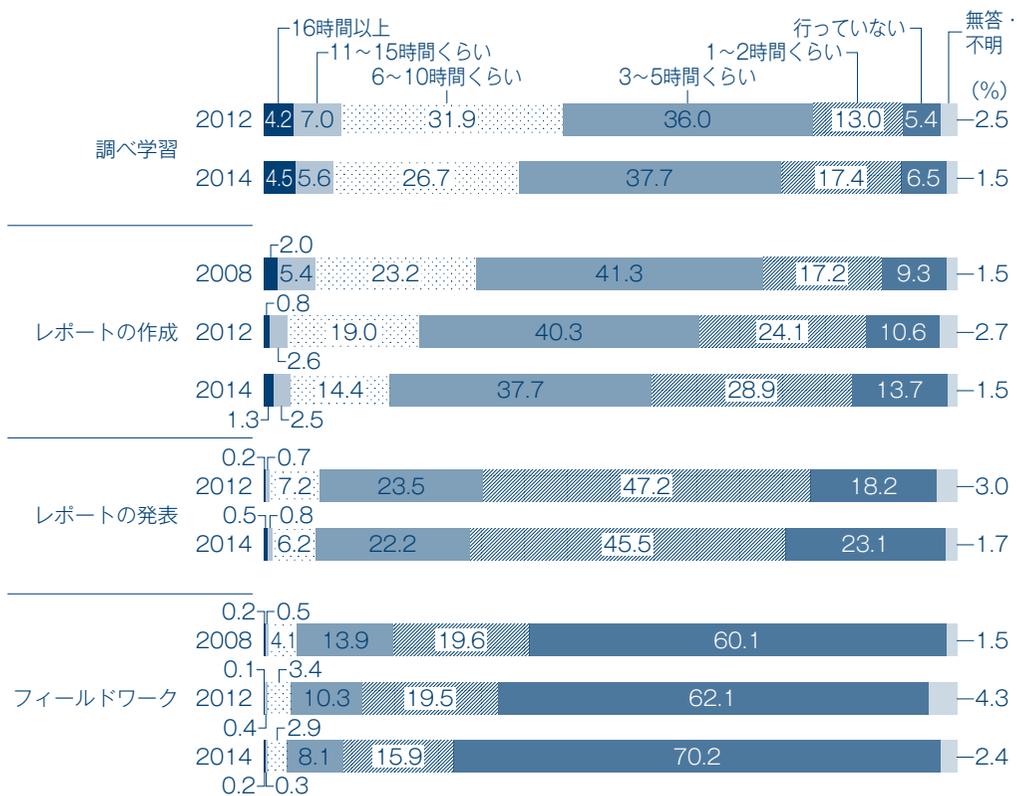
3

社会科の学習指導

テーマ探究型の学習活動の実施時間数をたずねたところ、「調べ学習」が最も多く行われており、年間11時間以上(「11～15時間くらい」+「16時間以上」)が10.1%、「6～10時間くらい」が26.7%である。また「レポートの作成」は「3～5時間くらい」が最多(37.7%)、「レポートの発表」は「1～2時間くらい」が最多(45.5%)である。「フィールドワーク」は「行っていない」の比率が高い(70.2%)。これらテーマ探究型の学習活動の時間数は、2008年から2014年にかけて徐々に減少している。

Q テーマを設定し探究する学習活動を、年間でどれくらい行っていますか。

図3-3 テーマ探究型の学習活動(経年比較)



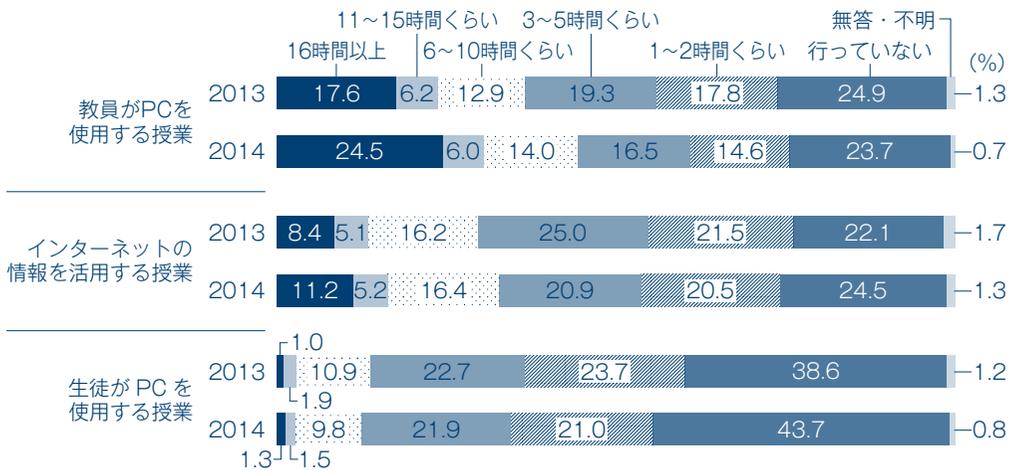
DATA④ 授業でのICTの活用状況

「教員がPCを使用する授業」の実施時間は、「16時間以上」が最多(24.5%)で、2013年に比べて増加している。「電子黒板」などのツールを活用する比率も増加傾向である。

社会科の授業で「教員がPCを使用する授業」を行っている比率(「1~2時間くらい」~「16時間以上」の合計、以下同様)は75.6%、「インターネットの情報を活用する授業」は74.2%、「生徒がPCを使用する授業」は55.5%である。特に、「教員がPCを使用する授業」の実施時間数は「16時間以上」(24.5%)が最多で、2013年(17.6%)に比べて増加している。また、「電子黒板」などのツールを活用している比率は、「電子(デジタル)教材」33.1%、「電子黒板」23.3%、「電子(デジタル)教科書(指導者用)」18.4%で、いずれも2013年から2014年にかけて増加傾向である。

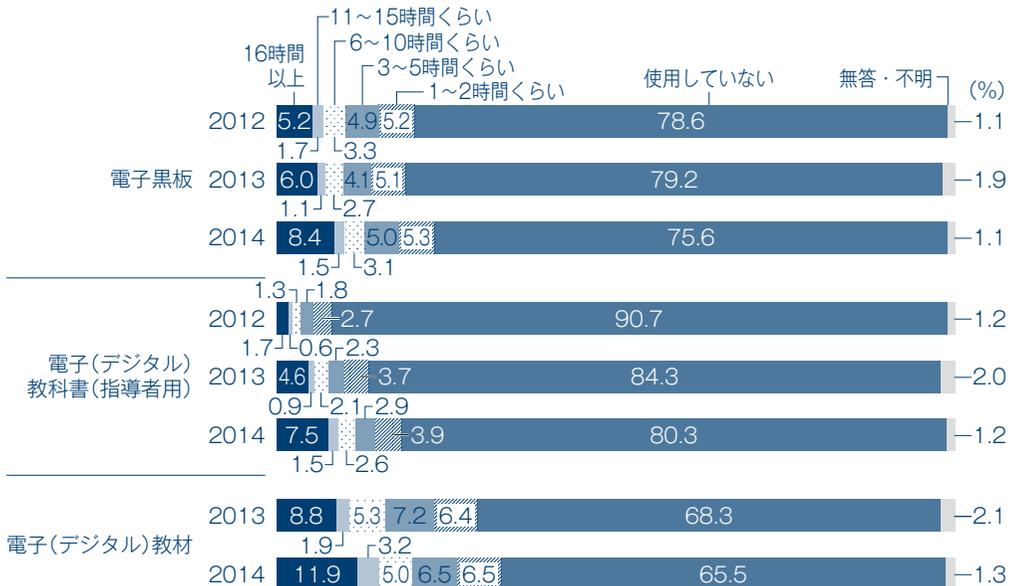
Q 次のような授業を年間でどれくらい行っていますか。

図3-4 PCやインターネットを用いる授業(経年比較)



Q 次のツールを年間でどれくらい活用していますか。

図3-5 ICTツールの活用(経年比較)



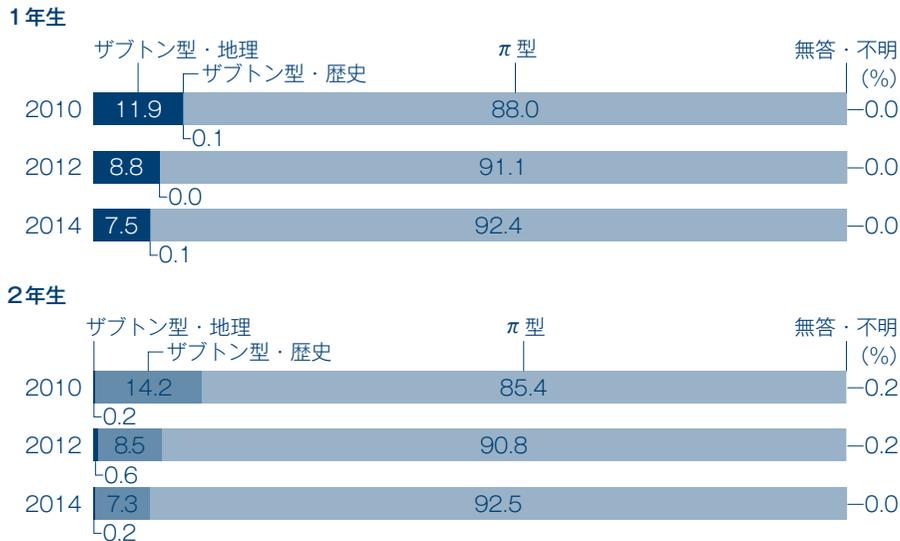
DATA⑤ 授業の進め方

授業の進め方は、1年生、2年生ともに π （パイ）型が9割強である。 π 型のなかでは、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」進め方が7割強で最も多い。

1年生、2年生の授業の進め方をたずねたところ、地理と歴史の π 型が1年生92.4%、2年生92.5%と多数をしめている。ザブトン型は1割弱で、1年生で「地理」、2年生で「歴史」を扱う比率が高い。また、 π 型で進める場合の地理と歴史の扱い方は、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が1年生67.5%、2年生67.3%と最多であり、次いで「1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う」が1割強である。

Q 中学1年生(中学2年生)では、どのように授業を進める予定ですか。

図3-6 授業の進め方(学年別)



※「 π 型」… π の記号のように、地理と歴史を1年間のうちにともに学習すること。
「ザブトン型」…座布団を重ねるように、学年によって1年間地理または歴史のどちらか一方のみを学習すること。

Q 【「 π 型」と回答した場合のみ】地理と歴史をどのように扱いますか。

表3-1 地理と歴史の扱い方(学年別)

	1年生	2年生
1週間の授業時間で地理・歴史をどちらも行う	6.1%	5.8%
1～2週間ごとに、地理・歴史を交互に行う	0.5%	0.3%
1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う	67.5%	67.3%
定期テストごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	8.9%	9.1%
学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	3.2%	4.5%
1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う	13.7%	12.9%

※無答・不明は省略している。